キャラクター名
リアン＝ランドール

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ ブラックドッグ	ワークス	情報屋	カヴァー	探偵
オプショナル		年齢	２３歳	性別	男
覚醒	生誕	衝動	憎悪	初期侵食率	38 %
出自	犯罪者の子	経験	成り上がり	邂逅	好敵手

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	0	0			4
感覚	2	0	0			2
精神	2	0	0			2
社会	0	1	0			1

HP	40
行動値	6
(非装備時)	6
戦闘移動	11
全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚	1		意志	2	1	調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：裏社会	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：ＵＧＮ	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
伸縮性警棒	白兵	4r	0	2		
雷帝（エレクトリッガー）	白兵	9r+6	0	34		1，2，3，5組み合わせ。9dx@8+6。ＨＰ-5。コスト11
100%以上	白兵	10r+8		38		1，2，3，5組み合わせ。10dx@7+8。ＨＰ-5。コスト11

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

思い出の一品（煙草：ピアニッシモ）	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Ｄロイス：超血統	P	N		
番場智和	P 連帯感	N 隔意		
ピンカートン探偵事務所所長	P 誠意	N 隔意		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
マグネットムーブ	1	3	イニシ		単体	自動	80↑	
効果： Lv×10m以内の対象をエンゲージさせる								
電磁反応装甲	3	10	オート	至近	自身	自動	120↑	
効果： 重圧下で使用可。ダメージ20軽減。重複可能								
リフレッシュ	1	5	オート	至近	自身	自動		
効果： 重圧下で使用可。バステLv個回復。シナリオ1回								
マグネットフォース	1	2	オート	至近	単体	自動		
効果： カバーリング								
磁力結界	7	3	オート	至近	自身	自動		
効果： ガード値＋（Lv）Ｄ								
鼓舞の雷	1	4D10	イニシ	視界	単体	自動	120↑	
効果： メインプロセスを行わせる。シナリオ1回。								
ペインエディター	2		常時					
効果： ＨＰ最大値+Lv×５。基本侵蝕＋３								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

ピンカートン探偵事務所所属の探偵。国際警察やらＦＢＩやらの依頼を受けて国から国へと飛び回る、フットワークの軽い人物。
現在は日本の東京都新宿区帳町を根城にし、公安局からの依頼を主に受けている。なんでもこの街が気に入ったらしい。
性格は粗野で横暴。好きなものは酒とタバコと女。あと金。俺様至上主義で自己中心的だが、依頼を請けたらどんなことをしてでも完遂する誠意はある。
愛煙家で、好きな銘柄は「ラッキーストライク」。酒は好きだがウイスキーロック一杯で泥酔できる下戸。女は顔より乳のデカさが重要らしい。

母親はイギリスの凶悪犯罪者「エンジェルメーカー」。生活の困窮した家庭から子供を引き取り、薬漬けにして餓死させていた。殺害した子供は少なく見積もっても４００人以上。彼女は生まれながらにしてソラリスのシンドロームを発現したオーヴァードであり、良識をもたぬサイコパスでもあった。
リアンは自身の母親の異常性に気が付き、幼い頃に逃走。母親と同様に彼も生誕時からオーヴァードであったため、その力を利用して逃げ込んだ先の裏社会で成り上がり、ピンカートン探偵事務所に勧誘されて今に至る。
性格や出自はどう見てもＦＨそのものだが、彼自身が「理由のない悪意」に対し異常なまでの嫌悪感を示し、ＵＧＮへの所属を望んだ。嫌悪の根底にあるのは、紛れもなく母親に向けての憎悪である。
帳町に留まるもう一つの理由として、「好敵手」の存在がある。この好敵手が誰なのか、どのような経緯でそのような関係を結んだのかはＰＬ同士の相談で決定する。